

<全体分析>

試験時間	情報学部－自然	1科目で75分
	情報学部－コン	
	医・理・農学部	2科目で150分

解答形式

記述・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

昨年同様4題の出題であった。知識問題の割合が増え、考察問題の割合が減ったため、昨年に比べてやや易化した。また、生物基礎の内容からの出題が減少した。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

毎年出題されている実験を計画する問題が、Ⅲ(3)で出題された。また、出題頻度が高かった遺伝の問題は出題されなかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 論述 選択	系統 細胞骨格	生物	ドメインを題材とした問題と細胞骨格を題材にした問題であった。(9)については、設問の文章から核のどのような点が異なるのかを述べたらよいか判断しにくい。	標準
II	記述 論述 選択	神経	生物基礎 生物	神経を題材とした、神経系、自律神経系のはたらき、伝導・伝達に関する問題であった。(8)については、両電極を細胞表面ではなく、細胞内に設置していることに注意する必要がある。	標準
III	記述 論述 正誤	代謝 植物の反応	生物	光合成の経路や植物の水分調節を題材にした問題であった。(2)については解答例に示したもの以外にアブラムシーアリの組合せなどが考えられる。(3)については主に d)の実験方法を参考にして書くとよい。	標準
IV	記述 論述 正誤	発生	生物	カエルおよびゼブラフィッシュの発生を題材とした問題であった。初期発生に関わるタンパク質のはたらきを正確に理解していた受験生には有利であったと思われる。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全分野から、さまざまな形式で総合的に出題される。知識問題は基本的なものが出題されるので、まずは教科書の内容を正確に習得することが大切である。そのうえで、問題集などを活用し、実験・考察問題の演習を十分に行っておこう。